

平成24年度 学校自己評価表(報告)

| 学校運営計画 | | | | |
|---|---|--|---|----|
| 学校運営方針 | 生徒個々の適性に応じた進路実現を支援するとともに、学習・学校行事・課外活動への積極的参加を促すことによって、活気に溢れた学校作りを進める。 | | | |
| 昨年度の成果と課題 | 今年度の重点目標 | 具体的目標 | | |
| <p><成果>①代替授業等を実施することで、自習時間を減少させることができた。 ②英検・漢検・数検・商業検定・家庭科技術検定など各種検定試験へ挑戦し、合格率を上げることができた。 ③登校時における指導により頭髪の乱れや服装違反が減少した。また生徒指導事例も昨年に引き続き減少した。 ④生徒の希望する就職先が全て決まり、また希望の学校に進学させることができ、進路指導では一定の成果が見られた。 ⑤きめ細かな生徒指導や学習指導により、転退学者が減少した。 ⑥入試倍率も向上しつづけ、地域からも評価される学校として定着してきた。 ⑦体育祭や文化祭、地域の声を聞く会への参加者が増加した。地域の方々の学校の教育活動への理解を得ることができた。</p> <p><課題>①自宅学習の習慣が定着していない生徒も多い。学習習慣をつけさせるために個々の目標を明確にさせ、やる気を引き出す指導の工夫が必要である。 ②部活動への参加率も昨年に比べてやや増加したものの、依然として低い水準にとどまっている。 ③清掃指導をより徹底する必要がある。 ④就職難・経済的理由による進学不能の生徒の進路実現を図るため、例年より一層早期からの進路指導を実践する必要がある。 ⑤服装指導(特にスカートの指導)をさらに継続し、遅刻防止・挨拶励行と、規範意識を徹底させる。 ⑥保護者との意志の疎通を欠くことがないよう、学校の指導方針や生徒に関する情報交換をより密にする必要がある。</p> | <p>生徒の学力実態に即した指導目標の明確化と指導方法の改善に努め、基礎学力の向上をはかる。</p> <p>地域・保護者と連携しながら、基本的な生活習慣と規範意識をきちんと身に付けた生徒の育成に努める。</p> <p>啓発的進路学習の積極的実施によって生徒の進路意識を高めるとともに、組織的な進路指導体制の確立と充実をはかる。</p> <p>集団生活における望ましい人間関係と適切な自己表現力の育成をはかりながら、活気溢れる学校作りを進める。</p> | 教材構成と指導方法の工夫・改善を進め、分かりやすい授業を行う。 | 適切な学習目標や課題を設定し、学習意欲の喚起に努める。 | |
| | | 地域・保護者と協力しながら、基本的な生活習慣を養う指導を徹底する。 | 規範意識を身に付け、善悪を正しく判断して行動できるよう指導する。 | |
| | | 進路情報の提供に努めるとともに、生徒が進路資料を閲覧・検索しやすい環境作りを進める。 | 個別的進路相談を充実させながら、より組織的な進路指導を行い、生徒の進路実現を支援する。 | |
| | | 部活動及び生徒会活動・学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。 | 自己の在り方・生き方についての自覚を深めさせ、適切に自己表現する力を育成する。 | |
| 重点目標 | 具体的目標 | 具体的方策 | | 評価 |
| 教科指導 | 教材構成と指導方法の工夫・改善を進め、分かりやすい授業を行う。 | 生徒アンケートで「授業が分かり易い」との回答が7割以上を目指す。 | B | B |
| | | 視聴覚教材の使用や作業学習の導入など指導方法の工夫・改善に努める。 | A | |
| | | 授業への遅刻を防止し、授業中には学習に真剣に取り組む態度を養う。 | B | |
| | | すべての教科・科目でシラバスを作成し、生徒に提示・公開する。 | A | |
| | 適切な学習目標や課題を設定し、学習意欲を喚起する。 | 放課後や自宅での自主的学習を促す指導を行い、自宅学習時間0分者を減少させる。 | B | |
| | | 自習率が昨年度よりも低くなるように抑える。 | A | |
| 生徒指導 | 地域・保護者と連携して、基本的な生活習慣を養う指導を徹底する。 | 登校時に制服指導・挨拶指導を行なう。 | A | A |
| | | 服装頭髪やアルバイト・免許等について学校の指導方針の周知徹底をはかる。 | A | |
| | | 普通車免許取得のための自動車学校への入校時期を変更し、学習習慣を付けさせる。 | B | |
| | | 「生徒指導部通信」を各学期に2回程度ずつ発行し生徒指導の方針への理解を促す。 | A | |
| | 規範意識を身に付け、善悪を正しく判断して行動できるよう指導する。 | 携帯電話の使用マナーについて指導を徹底する。 | B | |
| | | 薬物乱用防止講話を実施して、薬物汚染の怖さへの理解を深めさせる。 | A | |
| 渉外 | PTA活動を活発にする。 | 免許保有者のバイク実技講習会への参加率を100%にする。 | A | B |
| | | 服装頭髪検査を年間5回実施するとともに、継続的に指導する。 | A | |
| | | PTA総会の参加者を昨年度よりも10パーセント増やす工夫をする。 | C | |
| | | 登校時の制服指導・挨拶運動へ参加する。 | A | B |

| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | | | |
|-----------|---|---|------|---|---|
| 保健指導 | 健康管理と環境の清潔維持を図る。 | 健康診断結果を利用し、疾病治療と規則正しい生活習慣を身につけさせる。 | A | A | A |
| | | 校舎内外の清掃を徹底し、学習と生活両面の環境維持に努める。 | A | | |
| | | 性教育講話を実施して、生徒の性についての理解を深めさせる。 | A | | |
| | | 特別支援委員会を中心に教育相談の研修を実施し、生徒理解を深める。 | B | | |
| 進路指導 | 進路情報の提供に努めるとともに、生徒が進路資料を閲覧・検索しやすい環境作りを進める。 | 学年ごとに『進路のしおり』を作成し、生徒の進路指導に有効活用をはかる。 | A | A | A |
| | | 進路ガイダンスを各学期ごとに実施するとともに、内容面での充実をはかる。 | A | | |
| | | 進路情報室の資料・施設を一層充実させ、有効な利用方法の指導に努める。 | B | | |
| | 個別的進路相談を充実させるとともに、より組織的な進路指導を行い、生徒の希望達成を支援する。 | 進学補習・模試受験指導・小論文指導などを計画的に実施する。 | A | | |
| | | 進路・学年・保護者間で緊密な連携を保ちながら進路指導を行う。 | B | | |
| | | 企業訪問・企業見学等を充実させ、就職希望者全員の進路実現を目指す。 | A | | |
| 特別活動 | 部活動及び生徒会活動・学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。 | 全校集会等で各部活動の紹介・激励を積極的に行い、部活動への参加を促す。 | B | B | B |
| | | 部室を整備するなど、部活動が実施しやすい環境作りを進める。 | B | | |
| | | 体育祭と文化祭の内容充実に取り組みせ、生徒の参加意識の向上をはかる。 | B | | |
| | | 施設訪問や地域行事への参加により、人との触れあいや社会貢献の態度を育てる。 | B | | |
| | | LHRを活用しながら人権感覚を養う指導を適切に実施する。 | B | | |
| 総合学習 | 自己の在り方・生き方についての自覚を深めさせ、適切に自己表現できる力を育成する。 | 自己の適性と将来の人生設計を真摯に考察する態度を育成する。 | B | B | B |
| | | レポート・発表・小論文等を通じて、適切な自己表現力の育成に努める。 | A | | |
| | | 校外での体験学習等を充実させて、将来についての考察を深めさせる。 | B | | |
| 人文理数コース | 大学進学等の進路希望実現に必要な学力の向上をはかるとともに、学習に対して意欲的に取り組む姿勢を育成する。 | 授業理解が深まるよう家庭学習の方法を指導し、習慣付けをはかる。 | B | B | B |
| | | 指導方法を工夫し、進路実現に必要な主要教科の学力向上をはかる。 | B | | |
| | | 英検、漢検、数検を積極的に受検するよう指導する。 | B | | |
| | | 問題演習や実験を多く取り入れ、授業内容の充実を図る。 | A | | |
| 情報ビジネスコース | 商業の各分野に関する基礎的な知識・技能を習得させ、職業人として必要な心構えを育成する。また、資格を活かして商業系大学への進学及び就職を目指す。 | 学習到達度をはかるために各種検定を受検させ、商業に関する基礎的な知識・技能を習得させる。 | A | A | A |
| | | ワープロ・表計算・プレゼンテーション・ネットワーク管理などの実務に必要なソフトの活用能力を育成する。 | A | | |
| | | 社会人・職業人として要求される知識・能力・態度を身に付けさせる。 | B | | |
| 健康体育コース | 幅広いスポーツの実践や理論の学習を通して、より高い技能及び知識の習得をはかる。また、健康・安全に関する基礎知識を学ぶ。 | 運動の楽しさを理解させ、生涯スポーツに取り組む姿勢を育成する。 | A | A | A |
| | | 社会生活における健康・安全に関する基礎知識を習得させる。 | A | | |
| | | 社会人・職業人として要求される知識・能力・態度を身に付けさせる。 | B | | |
| 文化教養コース | 社会人及び家庭人として必要な基礎的教養を習得させ、豊かな人間性を育成する。 | 実験・実習を多く取り入れて、実践的能力を育成する。 | A | A | A |
| | | 社会・文化・環境についての関心と理解を深めさせる。 | B | | |
| | | 豊かな生活文化の継承と創造に必要な基礎的スキルを身に付けさせる。 | B | | |
| | | 家庭科技術検定を実施し、実践的な知識と技術を身に付けさせる。 | A | | |
| 成果 | | * 進路指導において、就職達成率が4年連続100%、進学達成率も90%台後半となった。 | 総合評価 | | |
| | | * 登校時の制服指導・挨拶運動を実施することで一定の成果をあげた。 * 毎日のきめ細やかな指導と問題行動への組織的な対応により、問題行動が減少した。 * 保護者との情報伝達手段として吉田高校公式HPを有効に利用することができた。 * 情報ビジネスコース、文化教養コースにおいて検定試験等の資格取得に成果をあげた。 | | | |